

「39窃盗団(サンキューせつとうだん)」

押田興将監督

公開中の「39窃盗団(サンキューせつとうだん)」は、悪いやつにそのかされて泥棒の旅に出る兄弟をめぐるコメディ。兄(押田清剛)はダウン症。弟(押田大)と、共に旅する幼なじみの女(山田キヌヲ)は発達障害という設定。彼らは、だまされたり、誤解されたりしながらも、生きる強さを失わない。

「社会的状況への憤りはある」と言い、知的障害を持つ人々を取り巻く問題も見せるが、あくまでも中心は主人公たち。「この映画では、カメラは常に人間を撮るのだ、ということにしたかった。見ている時は単純に笑ってもらいたい。そして後から、『何なのだろう、あの映画』と思ってもらえれば、作ったかいがあったと思うんです」

ダウン症の弟を撮る



「自分が共鳴するのは、通常当たり前だと思っていることが当たり前じゃないところで生きている人たち。世の中で不幸だと定義されているところで生きている人にすごく興味があるし、それを不幸な人だととらえることはできない。なぜかと考えた時、やっぱり清剛という存在が大きいのだろうと思う。家族として生きてきて彼を不幸だと思ったことはなかったのだ」

映画を通して人間を
探求する上での原点と
もいえる清剛は、もう
一人の弟、大と共に、観客の
固定観念を鮮烈に裏切る物語
をチャイミングに演じる。撮
影は、その場で起こることを
逃さぬよう、ワンシーン、ワ
ンカットで行い、後から編集
したという。